



福島県立

たむら支援学校だより

vol.34

=小学部= たむら支援学校 小・中学部運動会

5月23日(土)に、田村市長様はじめ、地区の来賓の方々をお迎えして、たむら支援学校小・中学部「運動会」が開催されました。前日の夜まで雨が降り続き、開催が心配されましたが、当日は、朝から晴れ間が広がり、清々しい5月の風を受けながらのびのびと競技する子どもたちの姿が見られました。児童生徒は、皆様の応援を受けながら、日頃の練習の成果を生かして最後まで頑張りました!



=中学部= お人形様見学(社会科)

5月13日(水)に、県の無形民俗文化財である「お人形様」の見学に行ってきました。屋形、朴橋、堀越の順に田村市内にある全てのお人形様を見て回りました。お人形様の表情や手に持っているものなどを確認した後、手を合わせて健康をお願いしてきました。見学の際には、細い小道や急な階段がありましたが、気を付けて通行し、無事見学していただくことができました。



=高等部= 農福連携事業(合同職業)

農福連携事業の一環で、5月15日(金)にJAさくらの職員さんと地域の農家さんが来校しました。合同職業の総合サービス班・農園芸グループの生徒と交流しながら、落花生やカボチャ、モロヘイヤの苗の植え付けをご指導していただきました。うね立ての際のくわの使い方やマルチの張り方、苗植えのポイント等、専門的な視点から丁寧に教えていただき、生徒は真剣に話を聞いて取り組んでいました。



福島県立たむら支援学校



【春山校舎】Tel...0247-82-4114 Fax...0247-82-4119
 【石崎校舎】Tel...0247-82-4627 Fax...0247-82-4629
 HP...<https://tamura-sh.fcs.ed.jp> mail...tamura-sh@fcs.ed.jp



地域おこし協力隊奮闘記



空き家かえる通信
 田村市の皆さん、はじめまして。2月に地域おこし協力隊として着任した川崎恵李です。移住前から地元で空き家の改修に関わる中で空き家問題に興味を持ち、「地域の中で空き家問題に関わる活動がしたい」という思いから、田村市へ移住しました。
 現在は空き家相談窓口で、空き家の掘り起こしやマッチングに取り組んでいます。空き家問題は一つとして同じケースがないから、一件一件に丁寧に向き合い、次の世代へつなぐお手伝いをしていきたいです。
 また個人でも大工経験を活かして空き家改修に取り組み、ものづくりの楽しさや、みんなで手を動かしてつくる価値も広めていければと思っています。田村市に来て感

空き家かえる通信

改修・活動の様子は Instagram へ!

↓

▽川崎恵李プロフィール
 滋賀県大津市出身。大学で建築を学び、地域工務店で住宅の新築・改築工事に従事。現在は先輩協力隊の梶原奏絵さんと空き家改修にも取り組んでいます。空き家をかえる。日々を発信中。

じたのは、人のあたたかさ、新しい挑戦を応援してくれる空気です。私自身も、この町でたくさんの方と関わりながら、空き家を通して人や暮らしをつないでいけたらと思っています。これからどうぞよろしくお願いします。



海を越えて 英語指導助手ペンリレー No. 156

雄大な上高地



ローラ・フィシャーさん
 アメリカ合衆国・フロリダ州出身
 (田村市に来て2年目)

澄み切った青い流れ、そびえ立つ山々、足元に広がる豊かな自然。長野県の上高地を表すなら、まさにこの言葉がぴったりです。1年前、インスタグラムを見ていたとき、穂高連峰を背景に、橋の下を澄んだ青い水が流れる河童橋の動画を目にしました。「これは絶対に行かなければ」と強く思いました。そして今年のゴールデンウィークに、ついに上高地を訪れました。大正池でバスを降りると、目の前に広がる山々と緑の美しい景色に圧倒されました。大正池からよく見える穂高連峰は煙を上げていたのですが、これはこの山ではよくあることだそう、その光景に息をのみました。大正池から1時間ほどトレッキングすると、河童橋のあるメインエリアに到着しました。穂高連峰の眺めは、他では味わえない特別なものでした。山々に囲まれた場所、ありのままの自然の美しさを心から堪能することができました。



明神池へ向かうトレッキングの途中では、道沿いの小さな湿地帯や周囲の植物に目を奪われました。ようやくたどり着いた場所、立ち止まり、上高地を流れる川のほとりに腰を下ろしました。水の透明度の高さに改めて感動し、その清らかさに心を奪われました。次の旅行でも、ぜひ上高地を訪れてみたいと思います。もし訪れるなら、ピジターセンターに立ち寄って、おすすめのハイキングコースを聞いてみるのもよいでしょう。きっと素敵なアドバースがもらえるはずです。
 田村市に来て自然の美しさに驚き、日本の自然にもっとふれたいと思うようになり、旅行に出かけました。